

S E I G U R E D E N

遊び文化を発信。
みやびな伝統と歴史を
最先端のテクノロジーで
体感する百人一首の世界。



ニンテンドーDSをもとに時雨殿用に開発されたもので、それを手に展示室の中に入る。するとそこには液晶パネルが70枚敷き詰められ、照明を落とした薄暗い空間に映し出される平安京の夜景はまさに時代を超えた世界を体感できる。この液晶パネルでは幾つかのアトラクションが交互に繰り広げられ、それは「時雨殿なび」を使つて体験できる。「時雨殿なび」を使つたゲームには「大きな札」と名付けられたデジタル百人一首がある。なびに絵札が写り、ノロアビジョン上の70枚の札の中から該当するものを選び出すというものである。百人一首を知らない人でも絵柄などから判断できるが、一枚一枚のパネルが大きいため見つけ出すのはなかなか難しい。

同展示室の壁面には「百花繚乱」と名付けられた百人一首の歌が屏風に見立てて展示されている。なびを持つて近づくと、それぞれの壁面に対応した歌が画面に表示される。歌が朗詠され、わかり易く歌意まで説明してくれる。

鎌倉時代、藤原定家によつて集された「小倉百人一首」の発祥の地として知られ、山荘「時雨亭」がある。その小倉山の麓にオーブンした「時雨殿」。渡月橋と保津川のすぐそばに位置しており、その口 Keystoneショーンは大変素晴らしい。周りには史跡・名勝が数多くあり、京都らしい雅な風情を残している。緑鮮やかな嵐山を背景に建つ「時雨殿」は2階建ての近代的な建物であるが、周りの風景に違和感なく溶け込んでいる。

その他、いろんな遊びが いっぱい詰まつた エンターテインメント空間。

また、地上1000メートルから眺める「京都空中散歩」では、京都中心部上空を歩きながら現在の京都の街を一望できる。なび操作によって観光案内等もしてくれるので嵐山周辺以外の京都観光スポットも検索できるのがうれしい。隠れアイテムが幾つかあり、任天堂キャラクターのマリオも隠れているので探してみるのもおもしろい。

「時雨殿なび」を返却し、次の展示室へと移動すると、そこでは「体感かるた五番勝負」と「謎解きの井筒」というゲームが楽しめる。「体感かるた五番勝負」では百人一首に出てくる歴史上の人物とかかる取り対戦ができる。「謎解きの井筒」に移ると、そこでは井筒が問い合わせる5つの謎を画面上の月が沈むまでに解き明かすというゲームで楽しめる。

1階フロアで楽しんだ後、2階に続く階段を上ると、120畳の大広間が目に入る。百人一首の大広間は競技かるた大会に使用できるようになっていて、2階の廊下からも美しい嵐山の風景が展望できる。

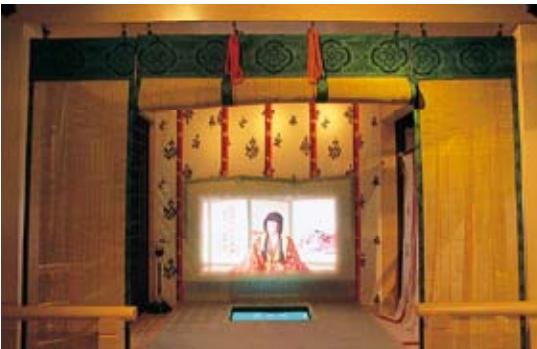
百人一首という日本の伝統と最新テクノロジーが融合された、今までにない不思議な空間。全館バリアフリーの設計で子供から老年寄りまで夢中になつて楽しめるスポットだ。



足下に広がる画面いっぱいの京都市内



2階には大広間と貴重なかるたの数々



遊びながら百人一首を親しめるかるた取り対戦



小倉百人一首殿堂 時雨殿

京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場11
TEL.075-882-1111
営業時間 10:00~17:00(入館は16:30まで)
定休日 月曜日(祝日の場合は翌日)
一般800円
www.shigureden.com

時雨殿に行つた後は 嵯峨野の自然でのんびり

洛外遠く離れた山里にあるその美しさは、皇族や貴族に愛され、彼らの別荘や隠棲の地となつた嵯峨野。時雨殿はこのような史跡、名勝指定地区内に建てられており、「時雨殿」で遊んだ後も嵯峨野界隈を散策しながら、歴史や文学に触れることができる。

渡月橋を離れて竹林の道を抜けると小倉山の東麓に建つ「二尊院」へ着く。「二尊院」は藤原定家が小倉百人一首を撰集したとされる時雨亭跡が残つていて紅葉の名所である。「二尊院」から嵯峨野へ足をのばせば、女性的な紅葉が魅力的。

「常寂光院」がある。そして茅葺きの庵、松尾芭蕉の弟子である向井去来が営んだ隠棲所といわれる「落柿舎」もほど近い。小倉山の麓道は、自然が多く残るこの嵯峨野の中でも一番の観光スポット。四季折々の美しさを見せてくれる嵐山・嵯峨野の風情は、古くから知られており、保津川下りの終着点でもある。

春の桜初夏は三船祭、夏の夜は鵜飼い、秋には紅葉祭、そして雪景色などなどの季節に来ても、その季節の美しさを感じることができます。都会の喧騒を離れ、どこか懐かしい気持ちにさせてくれる嵯峨野をぶらり歩いてみるのはいかが。

嵯峨野と言えば有名な竹林。
落ち着いた時間がながれる。

10



障壁画(国重要文化財指定)

桐紋襖の上に描かれた珍しい山水画。この襖絵は、襖絵制作を常々懇願しながらも許されなかった等伯が住職の留守中に一日で書き上げたという興味深いエピソードが残る。



赤松燎画伯の遺作。荒波の中から天をめざす白龍は戦乱の世を統一した秀吉を象徴したもの。



秀吉の出世守本尊である三面大黒天。大黒天・毘沙門天・弁財天の合体像。



秀吉の築き上げた

雄大で豪華な

桃山文化の宝庫



北庭(国名勝指定)
庭師、賢庭作といわれ、後に小堀遠州
が手を加えた。巨石をふんだんに使い、
桃山時代の豪華さが表現された枯山水
庭園。縁側に腰を下ろして眺めること
ができる庭園は四季折々の姿を見せる。

東山の美しい緑につつまれる
ひつそりとした佇まいのもとで、
美しくも儂い秀吉の思い出とともに
静かに晩年を過ごしたねね終焉の地。

高台寺 圓徳院

豊臣秀吉の妻、北政所ねねは「高台院」の号を勅賜されたのを機縁に、高台寺建立を発願し、秀吉との思い出深い伏見城の化粧御殿とその前庭を山内に移築し、移り住んだ。これが今日の圓徳院の起こりである。その後、木下家の菩提寺として開き、高台寺の塔頭とした。爾来北政所を慕い多くの文化人が訪れたと伝えられ、ねねが七十七歳で没するまでの十九年間はこの圓徳院で過ごしている。境内北側には国の名勝に指定されている前庭(北庭)が残る。

また、北庭と同様、伏見城から移築された当初の化粧御殿は、惜しくも一八六三年(文久三年)に大火が原因で焼失している。この化粧御殿とは、ねねが伏見城において日常用い、建物自体がまるで化粧をしたような華麗な装飾の施された姿からそう呼ばれたが、残された資料はほとんどなく、その様子は長い間不明であった。しかし近年発見された資料によつて全体像が浮き彫りになりつつ、それにもない化粧御殿を復元する動きも起こっている。創建当初の化粧御殿の復元が可能になれば、京に花開いた桃山文化の栄華を目の当たりにするとともに、次代への文化の継承にも一役買うのではないだろうか。往時の再現を願うばかりである。



花洛名勝図会(出版年月1862年文久2年)による化粧御殿を含む高台寺俯瞰図。

INFORMATION
秋の夜間特別拝観
10月20日~12月3日
地図:P4 M-12参照